

教訓伝承

震災の経験を後世に受け継いでいくために
東日本大震災伝承シンポジウム

SDGs GOAL 4 質の高い教育をみんなに
SDGs GOAL 16 平和と公正をすべての人に

3月1日(土)、公益社団法人3.11メモリアルネットワーク主催の東日本大震災伝承シンポジウムが、市コミュニティホールで開催されました。

持続的な震災伝承のあり方について事例発表とディスカッションが行われた本イベント。震災の記憶の風化が進む中、震災を知らない世代を含めた次世代へこの教訓を受け継いでいこうと、来場者は学びを深めました。



震災伝承の意義を訴えかけました

事例発表者として壇上に上がった市観光物産協会の小林大樹事務局長補佐は、高田松原津波復興祈念公園でのパークガイドの取り組みに触れ、「震災を体験していないU・Iターン者などにもガイドの担い手になってもらっている」と話し、教訓を未来につないでいくための伝承のあり方を共有しました。

感謝を胸に

仲間とともに巣立ちの春
市内小中学校で卒業式

SDGs GOAL 4 質の高い教育をみんなに
SDGs GOAL 11 住み続けられるまちづくりを

3月13日(木)から19日(水)にかけて、市内小中学校の卒業式が行われました。

創立150周年の節目の年度に行われた米崎小学校の卒業式では、20人の児童が卒業証書を受け取りました。佐々木一義校長は「今受け取った卒業証書には、家族や地域の皆さまの深い愛情が詰まっていることを忘れないでほしい」と挨拶し、卒業生はそれに応えるように、感謝の言葉と合唱でお世話になった方々への思いを伝え、思い出の学び舎を巣立ちました。



家族や先生、地域の皆さんに感謝の思いを伝えました(米崎小学校)

令和6年度卒業人数

小学校(8校)：114人 中学校(2校)：136人

令和の怪物

夢への第一歩に市民熱狂
佐々木朗希投手のメジャーデビュー戦を応援

SDGs GOAL 16 平和と公正をすべての人に
SDGs GOAL 17 パートナリシップで目標を達成しよう

本市出身で、米大リーグのロサンゼルス・ドジャースに所属する佐々木朗希投手が出場した開幕シリーズのパブリックビューイングが、3月19日(水)、アバッセたかたで行われました。

待望のメジャー初先発となったこの日、会場には熱い声援を送ろうと約80人の市民らが集まりました。



地元から熱いエールを送りました

2回まで無失点が続いた佐々木投手のピッチングに、この春高田小学校を卒業した菅野奨太さんは「やっぱり150kmを超えるストレートが魅力。無失点で抑えて、これからメジャーで活躍するようなスター選手になってほしい」と期待を寄せました。

佐々木投手は、制球に苦しみながらも3回1失点と堂々のデビュー。チームを勝利に導き、見事に市民の声援に応えてくれました。

地域包括支援
センター発

介護お茶のみ話

125



高齢者の生活に必要な
日常生活用具購入費を
助成します!!

高齢者日常生活用具給付事業は、身体上または精神上の障がいがあるために日常生活を営むのに支障がある人、単身高齢者などを対象に、日常生活上の便宜を図るための次に掲げる用具に係る費用を助成します。

給付用具の種類

- 1 電磁調理器
- 2 火災警報器
- 3 自動消火器
- 4 サウンドモニター

給付対象者と給付基準額および給付区分条件

市内に住所を有し、市民税非課税世帯の構成員で次に掲げる用具の区分ごとの対象者(基準額以内の助成とし、基準額を超える金額は自己負担となります。)

1 電磁調理器

原則65歳以上の単身者で心身の機能の低下により防火上の配慮が必要と認められる人
◎基準額 4万1千円

2 火災警報器

原則65歳以上の単身者で寝たきりの状態にある人
◎基準額 5千円

3 自動消火器

原則65歳以上の単身者で寝たきりの状態にある人
◎基準額 2万8700円



4 サウンドモニター(玄関チャイムと連動して、外部からの連絡を光で知らせる器具)

原則65歳以上で高齢による重度の聴覚障がいがある人
◎基準額 1万2900円

※サウンドモニターの給付のみ、現物給付により行います。

申請から助成の流れ

- 1 高齢者日常生活用具給付申請書を市に提出
- 2 給付決定後、購入
- 3 購入の領収書などを添えて請求書を市に提出
- 4 用具購入に要した金額を受け取る

問い合わせ先 地域包括支援センター(内線217)

保健だより

518

がん検診の申し込みが始まります!

がん検診を受けましょう

かつては、「不治の病」というイメージが強かった「がん」ですが、近年は医療の進歩によって、早期に発見できれば完治することも多くなりました。しかし、がんは日本人の死因1位であり、2人に1人以上は何らかのがんにかかると言われています。

早期のうちは無症状という特徴が、早期発見・早期治療を阻む要因のひとつです。

自覚症状がないからこそ、定期的にがん検診を受けることが大切です。

市で行っているがん検診

40歳以上が対象の検診

○胃がん検診：(毎年)胃部X線撮影(バリウム)

X線検査は、発泡剤とバリウム(造影剤)を飲み胃の中の粘膜を観察します。

○肺がん検診：(毎年)胸部X線撮影、痰の検査

レントゲン検査は肺全体を映

す撮影をします。痰の検査は対象者のみです。

○大腸がん検診：(毎年)便潜血検査

検査は2日分の便の表面をこすりとり提出します。便に潜む血液の有無を調べます。

男性のみ対象の検診

○前立腺がん検診：(50歳以上、毎年)血液検査

前立腺特異抗原(PSA)の値を測定し、前立腺がんの可能性を調べます。

女性のみ対象の検診

○乳がん検診：(40歳以上・2年に1回)乳房X線撮影

乳房を片方ずつ板ではさみ撮影します。触っても分からないしこりや石灰化を見つめます。

○子宮頸がん検診：(20歳以上・2年に1回)子宮頸部細胞診

検査はブラシなどで子宮頸部の表面をこすり、採取した細胞を顕微鏡で調べます。

がん検診の申し込み

4月中に各世帯へ「各種検診申込書」を送付します。ぜひ、この機会にお申し込みください。

問い合わせ先 市役所保健課健康推進係(内線235)